

## F-22 生活時間と意識について — 家庭婦人と職業婦人の比較 —

広島女大家政 稲田 準子

1. 家庭経営の基礎的資料の一部として、主婦の生活時間について、家庭婦人と職業婦人の実態を調査するとともに、生活時間に関する意識を調査し、比較検討する。

2. 調査対象は、30歳～49歳の主婦。核家族、給与生活者、年齢、家族数、学歴などを考慮し、名簿に基づき各100人抽出（広島市周辺部住宅地居住者）個人面接法により前日（平日）の生活時間を調査、併せて生活時間に関する意識調査を行なう。

3. 家庭婦人と職業婦人とに、有意差がみられたのは、生活時間では、労働、家事、テレビの3項目である。労働時間の増大に伴ない、縮小されているのは、家事とテレビで、睡眠時間は職業婦人がやや少ない傾向を示しているが有意差はみられない。さらに家事時間を内容別にみると、家庭婦人の方が時間が多いの、掃除（居住条件は差なし）裁縫であり、洗たくは差がみられない。

生活時間に関する意識で、2群に差がみられた項目として、“睡眠時間が少ない”、“家事時間が短い”が職業婦人に多く、“趣味の時間がほしい”が家庭婦人に多い。趣味、睡眠は時間的には両群に差がみられない。